



2019
vol.2

F D news

Faculty Development

COILとは？

グローバル教育推進センター 水谷裕佳 准教授

反転授業について

理工学部情報理工学科 田村恭久 教授

2018年度秋学期 全学共通科目授業アンケート



学生からの声 授業アンケート 集計結果

回答率48.1%
(前回差+13.4%)

2018年度秋学期全学共通科目授業アンケートについて

このたび集計結果がまとまりました。ご協力下さった学生、教員の皆様に深く感謝申し上げます。

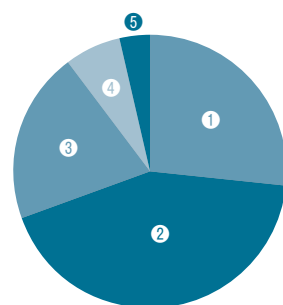
〔対象科目総数〕277科目(実数*272) 〔回答対象者数〕21,562名 〔回答者数〕10,363名 〔回答率〕48.1%
※登録コード・科目名が異なるが、担当教員・授業時間が同一の科目を実数と数える。

◆過去3回の推移

	2016年度・秋学期	2017年度・春学期	2018年度・秋学期
対象科目総数	255 (実数252)	261 (実数256)	277 (実数272)
回答対象者数	17,746	20,560	21,562
回答者数	4,305	7,144	10,363
回答率	24.3%	34.7%	48.1%

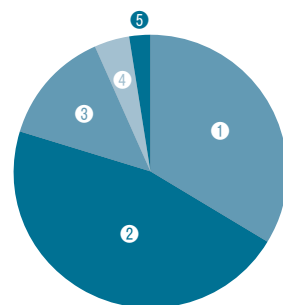
この授業を受けて知的に刺激され、
深く勉強したくなりましたか。

- ①とても知的に刺激された (2,774) 26.8%
- ②知的に刺激された (4,442) 42.9%
- ③どちらとも言えない (2,098) 20.2%
- ④あまり知的に刺激されなかった (694) 6.7%
- ⑤知的に刺激されなかった (355) 3.4%



総合的に判断して
この授業に満足しましたか。

- ①とても満足した (3,500) 33.8%
- ②満足した (4,789) 46.2%
- ③どちらとも言えない (1,384) 13.4%
- ④あまり満足しなかった (440) 4.2%
- ⑤満足していない (250) 2.4%



アンケート
集計結果の詳細

ご担当科目：Loyola ⇒ アンケート/各種申込 ⇒ アンケート集計結果照会
全体総括：FDホームページに掲載
<http://www.fd-sophia.jp/education/survey/report.html>

[今後の活動予定]
講演会開催の
お知らせ

“Leadership in Ignatian way of proceeding”について

日時 2019年4月10日(水) 16:00~16:45 場所 上智大学四谷キャンパス 2号館1702会議室
講師 李 聖一 氏 (イエズス会中等教育担当理事)



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

上智大学 学事センター(FD推進担当)
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 TEL.03-3238-3522 FAX.03-3238-3264

<http://www.fd-sophia.jp/>



〈発行日〉2019年3月 〈発行者〉上智大学FD委員会

上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

COIL (Collaborative Online International Learning／国際協働オンライン学習)とは、ICTを活用し、オンラインによる協働学習と国際交流を取り入れた教育手法である。本学は平成30年度「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」に採択され、国内3大学+米国10大学での共同事業が開始した。日米間の交流促進と質の高い教育プログラムの提供を目標としながら、長期的にはCOILの活用を通して途上国での教育格差是正への貢献を目指す。

COILとは？

グローバル教育推進センター 水谷裕佳 准教授

私自身はCOILの専門家ではないし、機械に強いわけでもない。今年度は米国の大学から送られた講義ビデオを利用しながら、手探りでCOILの授業を行った。学生には、米国の大学の授業を模擬体験できる機会を提供でき、特に留学を考える学生にはメリットがあったと感じている。



しかし、2018年12月に上智大学で開かれたCOIL事業のキックオフシンポジウムで出会った方から様々な事例を聞き、全く別の方法でもCOIL授業を展開できた可能性があったことに気付いた。

例えばある事例では、1つの大学のダンスの授業と、別の大学の工学の授業が連携した。1つの授業ではダンサーが身体に測定装置をつけて踊り、もう1つの授業では測定装置から転送された情報を使ってその動きをグラフィックスとして再現した。このような方法であれば、時差や言語の違いはそれ程の妨げにならない上、学生達は楽しみながら成功体験を積むことができたことであろう。

地理的な距離や言語の違いなどは身近なツールを利用してある程度カバーすることができること、そして遠く離れた場所にいる他者とも連携できることをいかに学生に体感してもらえるかが、COIL授業の鍵であると思う。



反転授業について

理工学部情報理工学科 田村恭久 教授



反転授業 (Flipped Classroom, Flipped Teaching) とは、「授業と宿題の役割を『反転』させ、授業時間外にデジタル教材等により知識習得を済ませ、教室では知識確認や問題解決学習を行う授業形態のこと」です(重田, 2014)。従来授業時間内に行なっていた講義をビデオ収録し、YouTubeなどのストリーミングサーバーに置きます。受講者は授業前にこれを視聴し、また事前課題に取り組むことで授業に備えます。これを踏まえ、授業時間ではグループ作業、ディスカッション、学生のプレゼンテーションなど、対面ならではの活動を行います。これにより知識が定着しますし、コミュニケーションや合意形成などのスキルも身につきます。

上智では、2018-2019年度の教育イノベーションプログラムとFD委員会が共同で、反転授業を試行しています。ご興味のある方は、情報理工 田村または学事センター FD担当までお問い合わせください。

重田勝介、反転授業：ICTによる教育改革の進展、情報管理、Vol.56, No.10, pp.677-684.



FD委員会活動内容

ACTIVITY REPORT

著作権に関する講演会

〈講師〉(株)テイクオーバー
我妻潤子 著作権コンサルタント
〈日時〉2018.11.7(水)

株式会社テイクオーバー我妻潤子氏を招聘し、「権利処理実務者からみた大学と著作権」というテーマで講演会が開催され、教員13名、職員9名の参加があった。講師から、著作権に関する基本的事項、および法改正による影響について解説がされた後、大学内でおこりうる著作権に関するさまざまな事例について紹介がされた。

事例についてのグループワークも行われ、参加者は自らの教育研究活動に結び付けて熱心に聴講された。講演後には、質疑応答の時間が設けられ、参加者から多くの質問が寄せられた。

【FDホームページにて記事掲載中】
http://www.fd-sophia.jp/activity/other/about_copyright_02.html

カウンセリングセンターとともに考える学生支援

〈講師〉カウンセリングセンター
横山恭子 センター長
〈日時〉2019.1.17(木)

カウンセリングセンターの協力により、FD委員会主催の「カウンセリングセンターとともに考える学生支援」が開催された。この講演会では、こころに不安を抱えている学生たちの現状を理解し、よりよい学生支援につなげる方法をカウンセラーと共に考えていくことを目的とした。

カウンセリングセンターを取り巻く現状について報告された後、事前に提出された具体的事例や、参加者の経験談をもとに、より良い学生支援を行うためにどうすべきかが検討された。

100分授業で何が变わるのか・変えられるのか

〈講師〉東京大学 栗田佳代子 准教授
〈日時〉2019.1.22(火)

総合グローバル学部との共催で、本学で2019年度より導入される「100分授業」に関する講演会が開催された。講師として東京大学より栗田佳代子准教授をお招きし、従来より追加される10分の授業時間をどのように有効活用し、学生の主体的な学びを実現できるかについて説明がされた。様々なオンライン講義の台頭により、大学の教室において生身で行う講義の質を高め、優位性を示すことが重要になると強調された。

【本講演会の映像は学事センターにて貸出しています】